

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内 1 丁目 3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1099 2011年10月号

## 「津志嶽シャクナゲ郷土の森」 保存協定締結を

【記事は2頁】



新木四国森林管理局長（左側）と兼西つるぎ町長（右側）



2011・国際森林年



シャクナゲの巨木

九月三〇日、徳島森林管理署管内の徳島県美馬郡つるぎ町久敷国<sup>ひんがし</sup>有林(津志<sup>つし</sup>嶽<sup>だけ</sup>「標高一、四九四<sup>だい</sup>」の東面、標高一、一〇〇<sup>だい</sup>一、四〇〇<sup>だい</sup>以域・天然林)の一部を「郷土の森」とする保存協定の調印式を、つるぎ町長と局長室において行いました。

現在、四国森林管理局管内には、五カ所の「郷土の森」が設定されていますが、徳島県内では今回の協定が初めてです。対象地は、全国的にも希少なシャクナゲの巨木が群生しており、平成一二年に旧一宇村<sup>いちうそん</sup>(現つるぎ町)の文化財(天然記念物)



「津志<sup>つし</sup>嶽<sup>だけ</sup>シャクナゲ郷土の森」  
保存協定結ばれる!

徳島県つるぎ町長と協定調印

〈計画課〉

に指定されており、地元久敷集落は、このシャクナゲ群落を、郷土の誇りとして大切に保護して来ました。

今般、つるぎ町から

二〇一一年国際森林年を記念した郷土の森に設定したい。」との要望が出され、四国森林管理局としても、こうした豊かで特色ある森林を、今後、森林レクリエーション、森林環境教育の場等として活用することにより、地域振興への寄与も期待されることから同意したものです。

調印式には、つるぎ町から兼西町長はじめ三名、四国森林管理局からは新木局長、徳島森林管理署長等が出席しました。

調印式では、新木局長より、「徳島県では初めての「郷土の森」の設定で大変意義深く、貴重なシャクナゲの巨木の群生地を地域の宝として守りつつ、地域住民の憩いの場、森林環境学習の場として広く活用され、地域の活性化が図れることを期待しています」との挨拶がありました。

一方、兼西つるぎ町長からは、「二〇一一年の「国際森林年」の年に、この協定の調印式を迎えられたことは、町としても大変な喜びであり、貴局のご理解とご協力に感謝します。この「郷土の森」の豊かな自然環境を地域住民等と一丸となって守り、地域の活性化と振興のために尽力することをお願い申し上げます。」との力強いご挨拶がありました。

調印式は和やかに進められ、協定書に調印した後、堅い握手を交わし、式は無事終了しました。

今年、「国際森林年」の記念すべき年であり、今後、つるぎ町では、この資源を活かした情報発信も行うこととしており、地元での今後の取組が大いに期待されると思います。



シャクナゲの巨木  
(幹廻約1m、樹齢推定四〇〇年余)



採取したきのこ「モミタケ」の説明

午後からはそれぞれが採取したきのこをシートに広げ、同定してもらいました。今年は、秋きのこが主流で期待通りの個体数は、見つかりませんでした。約四〇種のきのこを観察することができました。

なかでも珍しい種とされている「モミタケ」が、ここ鷹取山では、比較的良好に見かけられ、この日も（傘は、八〜二〇cm「可食」を観察することができました。当日は、天候に恵まれ、参加者からは、「色々なきのこがあるのにビックリしました。」「とても楽しかったので続けてほしい。」などの声も聞かれ、有意義な一日でした。

九月二三日、国際森林年記念事業として、高知県高岡郡梶原町鷹取山国有林において、「鷹取山きのこ観察ツアー」を公募により、二四名が参加して実施しました。講師は、森林の達人に登録されて

いる、「きのこの達人」の荒尾正剛氏（日本菌学会及び日本きのこ学会会員）に依頼しました。午前一〇時より約二時間、鷹取山の林内できのこを観察しました。途中、講師の説明を聞きながら森を散策しました。また、参加者よりオカリナ演奏のプレゼントもあり和気あいあいとした雰囲気でした。

※森林の達人は、多様な森林環境教育のニーズに対応するため、森林環境をフィールドとした遊びや活動に優れた四国四県の方々を「森林の達人集」にまとめホームページに掲載しています。※同定とは生物の分類上の所属・名称を明らかにすること。



## 各地のたより

### 森林土壌の実験

〈ふれあいセンター〉

九月二八日、愛媛県松野町立松野西小学校の四年生二人が、森林土壌の働きについて学習しました。

その後、児童が一ヶ月前に自分たちで埋めておいた「野菜くず」、「落ち葉」、「ペットボトルやガラス瓶」を掘り返してみました。ペットボトルやガラス瓶は、何の変化もなく残っていました。しかし、落ち葉は分解が進み始めており、野菜くずにいたっては、完全に分解され、いくらか探しても見つからないことに驚いていました。

土壌には微生物や昆虫などいろいろな生物がおり、枯葉などを分解し、土を作っていることを説明しました。



「森林」と「はげ山」どっちが強い？

「森林」と「はげ山」どっちが強い？